

認め合いができる学級集団を育てる支援の工夫

～『きらきらカード』を中心とした構成的グループエンカウターの実践を通して～

生徒指導・教育相談班 平方 篤行 (小学校教諭)

研究の概要

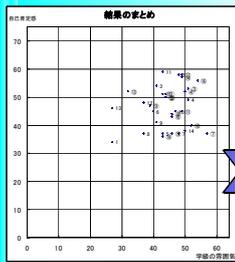
本研究では「認め合い」とは、児童一人一人が自分自身について知り、級友のよさに気付いて「みんなちがって、みんないい」と互いに認め合って、自分の居場所が学級の中にあることと考えた。児童は様々な個性をもっている。その個性を互いに認め合いながら、まとまりのある学級集団として、すべての児童が学習に取り組み楽しく学校生活をおくってほしいものである。そのために、自己理解や他者理解を目的とした構成的グループエンカウター(SGE)を実践した。さらに、自分を知り級友のよいところを知るための『きらきらカード』に取り組みさせることを通して、児童の自己肯定感を高めて児童にとって居場所がある学級集団を育てる支援を行った。

実践内容

—シェアリングでの児童の発表—

「みんなでやると楽しい」(なんでもバスケット)
 「このクラスになってよかった」(なんでもバスケット)
 「体育ではばとびが、じょうずにできた」(自分への手紙)
 「給食当番のしごとをいつも手伝ってくれる人と言えば、A君！」(OOといえば)

5月実施のC&S質問紙



5月に実施したC&S質問紙の結果によると、本学級には、自己肯定感が低い児童がいて、学級の雰囲気がよくないと感じている児童がいることが分かる。このため本学級では、これらの児童を含めたすべての児童が、級友のよさを認め合って、「みんなちがって、みんないい」と思える学級づくりが必要と考えた。

☆ 学級活動

—自己理解・他者理解をねらいとして—

- ・サイコロトーク (9月 1回実施)
- ・自分への手紙 (9月 1回実施)



- ・なんでもバスケット (10月 2回実施)



- ・4つのコーナー (11月 1回実施)
- ・OOといえば (11月 1回実施)



SGE

LINK

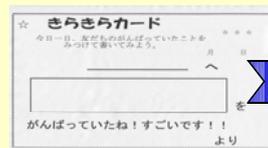
LINK

LINK

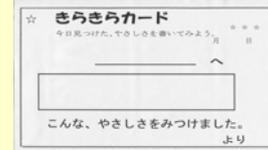
☆ 帰りの会

—自己肯定感を高めることをねらいとして—

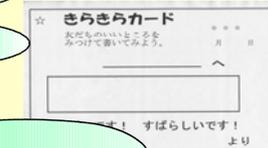
- ・きらきらカード 9月 (自分や級友について知る)



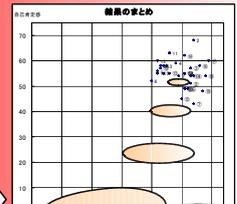
- ・きらきらカード10月 (自分や級友の優しさに気づき、級友との関わりをふり返る)



- ・きらきらカード11月 (自分や級友のよさを知り、認め合いができるようにする)



11月実施のC&S質問紙



「みんなちがって、みんないい」

11月実施のC&S質問紙の結果によると、児童の自己肯定感が高められ、学級の雰囲気がよくなったと分かる。学級の居場所がなかった児童は、級友から絵が得意なところをほめられて楽しく絵を描く姿が見られた。認め合いができる学級になってきた。

—『きらきらカード』に児童が書いた文章—

「給食当番で、いつも一番さいしょにはこんでくるのをがんばっていたね」(きらきらカード 9月)
 「どんなときも、やさしく話してくれる」(きらきらカード 10月)
 「絵がじょうずで、かきかたを教えてくださいます」(きらきらカード 11月)

成果と課題

C&S質問紙の結果と担任の見取りで、学級の実態を把握して、児童や学級の実態にあった支援を行うことを考えた。学級活動でのSGEへの取組で、学級内の児童同士の結びつきが深まり学級の交友関係が広がった。級友のよさに気づき、学級への所属意識も高まったことが見られた。帰りの会で行った『きらきらカード』によって、級友のよいところに目が向けられ、認め合いがある雰囲気が見て取れた。

C&S質問紙の結果では、学級全体の児童の自己肯定感も高まり、学級の雰囲気もよいたと感じる児童が増え、児童にとって居場所のある学級になってきていることが分かる。今後も認め合いができる活動を続け児童の実態に合わせて見直していく必要がある。